

平成7年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

1996・3

小矢部市教育委員会

はじめに

富山県の最西端に位置する小矢部市は、庄川が形成した広大な扇状地の西部域を占めている。北方を能登半島基部宇達丘陵地に連なる丘陵地、南方を区王山北麓を占めるなだらかな蟹谷丘陵地、西方を加越国境線をなす砺波山丘陵地によって限られている。東方には散居村で著名な砺波平野が展開し、遠く呉羽山丘陵、北アルプスを望むことができる。市域中央には各丘陵地より流れ出る中小河川の流れを集め、小矢部川が北流している。この左岸一帯は河岸段丘が発達し、河川の氾濫から逃げられる比較的安定した地勢を形成している。市内で確認されている遺跡のほとんどが、小矢部川左岸一帯に集中していることがこのことを明瞭に示している。

本年度小矢部市内で実施した発掘調査は総数21件(内同庫補助対象14件)、対象面積約55,000㎡である。調査の原因はすべて開発事業に先立つものである。調査依頼の件数は県内でも屈指のものであり、専門職員4人で対応しているが、調査対象となった遺跡から可能な限り多くの情報を引き出すため、調査及び整理作業に遅れをきたしていることを否認しない。

本年度の調査においては、野端將軍塚古墳から奈良時代前半期と後半期の遺物がまとまった量出土しており、当地周辺に存在した同時期の窯跡城が推測される。また養輪遺跡では奈良時代後半期の、石名田・木舟遺跡では室町時代中期の良好な一括資料が発掘された。市教育委員会はこれらの成果を、今後の調査に生かすべく邁進していく所存である。

なお、調査に当たっては地権者はじめ数多くの方々の協力を得た。記して謝意を表したい。

平成8年3月

小矢部市教育委員会
教育長 荒川昌夫

目 次

はじめに

I 調査経過	1
II 野端將軍塚古墳発掘調査概要	3
III 石名田・木舟遺跡発掘調査概要	9

報告書抄録

例 言

- 1 本書は富山県小矢部市内で平成7年度に国庫補助事業として実施した、埋蔵文化財緊急調査事業の概要を報告するものである。
- 2 発掘調査は、国庫補助事業50%、県費25%、市費25%の費用負担割合で実施した。
- 3 調査は伊藤隆三（小矢部市教育委員会社会教育課主幹）、塚田一成（小矢部市教育委員会社会教育課文化財係主事）、藤城全代（同主事）、辻谷真夕が担当した。
- 4 現地調査は、平成7年4月3日に開始し、平成8年3月29日に終了した。
- 5 本書の編集は、伊藤の指導のもと、塚田の協力を得て、藤城と辻谷が行なった。なお文責は文末に記した。
- 6 調査にあたって、小島俊彰氏（金沢美術工芸大学教授）、西井龍儀氏（日本考古学協会会員）の各氏のほか多数の方々の教示を得た。記して謝意を表したい。
- 7 遺物は一括して小矢部市教育委員会が保管している。

I 調査経過

平成7年度に小矢部市内で実施した埋蔵文化財調査は、試掘調査・本調査・分布調査・立会調査を合わせて総数25件、調査対象面積は134,778.83㎡であった。調査の原因は、ほ場整備事業、土地区画整理事業、史跡公園整備、宅地造成、駐車場建設、資材置き場建設などである。これら調査のうち国庫補助事業として実施したのは14件、対象面積54,788.63㎡である。そのほとんどは遺跡の所在確認のため試掘調査である。No1・2・3・5・6・7・8・9・11・12・13・14については遺構、遺物がまったく検出されなかったり、ごく少量であったもの、平成8年度継続が予定されているものであるため、No4・10について調査の概要を記すこととする。

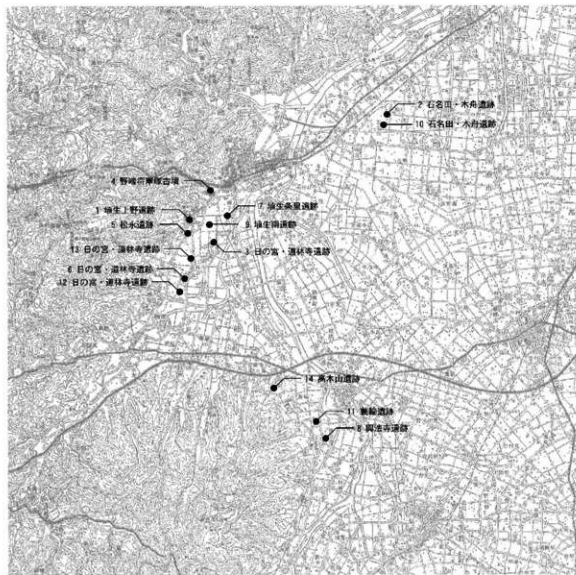


図1 平成7年度埋蔵文化財緊急発掘調査事業(国庫補助)実施位置図(S=1/100,000)

平成7年度埋蔵文化財発掘調査一覧(国庫補助分)

No.	遺跡名	所在地	調査の原因	調査期間	対象面積	調査結果・取扱い
1	埴生上野遺跡	小矢部市 埴生上野4243-30	住宅建設	H7.4.3 ～4.26	100㎡	縄文土器出土。
2	石名田・木舟遺跡	小矢部市 石名田5-1	資材置き場 建設	H7.5.23 ～5.24	63㎡	土師器出土。
3	日の宮・ 道林寺遺跡	小矢部市 蓮沼384	住宅及び草庫 建設	H7.5.23 ～5.24	174㎡	中世土師器・陶磁器 出土。
4	野端料塚塚 占墳	小矢部市 埴生字北反畝1624-1	住宅建設	H7.5.24 ～6.8	183㎡	木書報告。
5	松永遺跡	小矢部市 石坂327	住宅建設	H7.6.7	50㎡	遺構・遺物ともなし。
6	日の宮・ 道林寺遺跡	小矢部市 道林寺21	住宅建設	H7.6.21	200㎡	遺構・遺物ともなし。
7	埴生条里 遺跡	小矢部市 綾子3401外	住宅建設	H7.10.2 ～10.9	295.63㎡	遺構・遺物ともなし。
8	興法寺遺跡	小矢部市 興法寺309-3	倉庫建設	H7.10.3 ～10.9	423㎡	遺構・遺物ともなし。
9	埴生南 遺跡	小矢部市 埴生211-1	駐車場建設	H7.11.10 ～12.4	990㎡	溝検出。 須恵器、中世土師器、 珠洲、木製品出土。
10	石名田・木舟 遺跡	小矢部市 石名田39	資材置き場 建設	H7.11.28 ～H8.1.26	2,955㎡	本書報告。
11	炭輪遺跡	小矢部市 炭輪173-2	駐車場建設	H7.12.9 ～12.18	135㎡	ピット検出。 須恵器、珠洲、陶磁器 出土。
12	日の宮・ 道林寺遺跡	小矢部市 道林寺28外	配送センター 建設	H7.12.19 ～H8.2.20	12,587㎡	ピット、溝検出。 土師器出土。
13	日の宮・ 道林寺遺跡	小矢部市 道林寺312-1外	宅地分譲地 造成	H8.3.11 ～8.3.29	19,933㎡	河川跡、溝検出。須恵器、 土師器、珠洲、宋銭出土。 H8年度調査継続予定。
14	高木山遺跡	小矢部市 浅地浄土寺120-1外	特別養護老 人施設建設	H8.3.12 ～8.3.29	17,000㎡	H8年度調査継続予定。

II 野端將軍塚古墳発掘調査概要

所在地 小矢部市埴生字北反畝1624-1

調査期間 平成7年5月24日～6月8日

調査対象面積 183㎡

調査の原因 住宅建設

調査日誌(抄)

- | | | | |
|------|-----------------|-----|------------|
| 5.24 | 試験ピット設定。掘り下げ開始。 | 6.5 | 図面作成。 |
| 30 | 土器出土。トレンチ拡張。 | 8 | 埋め戻し。調査終了。 |
| 6.1 | 溝状遺構検出。 | | |

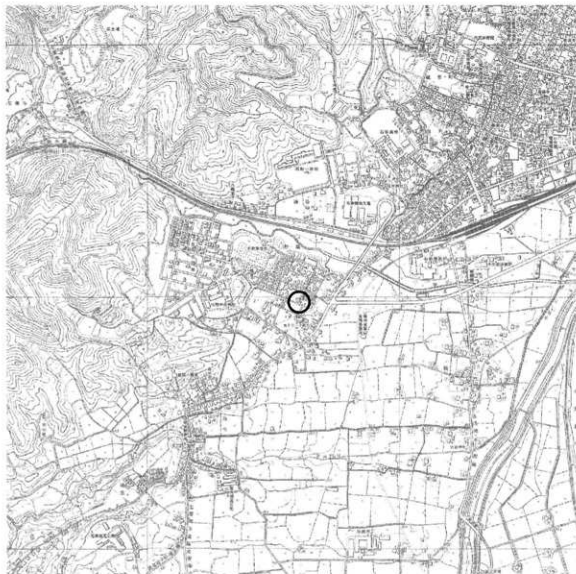


図2 発掘調査位置図(S=1/15,000)

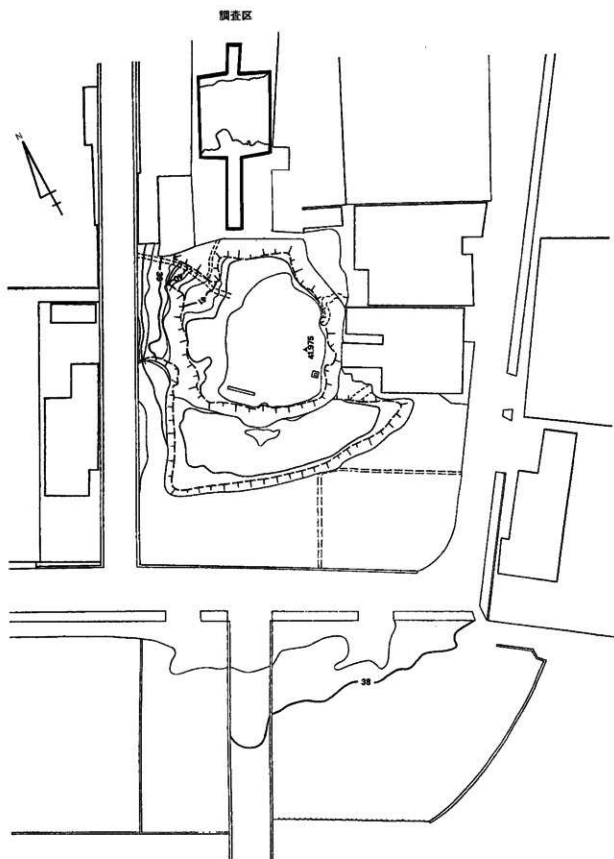


図3 墳丘測量図と試掘トレンチ位置図(S=1/400)

調査概要

野端將軍塚古墳は、砂川右岸の低位段丘上に位置し、消滅した円墳2基を含む野端古墳群の1基を形成している。標高は墳丘裾部で約38m、墳頂部で約42mを測る。野端集落の一面に位置し、墳丘の北側と東側は人家が隣接している。そのためその墳形は著しく削平され、残存している墳丘は南北約25m、東西約20mの不整形を呈している。

当古墳は1915年（大正4年）の地籍図には、弧状の畔とともに墳丘の周りに馬蹄形の区画が見られ、周濠を伴う帆立貝式古墳であった可能性が推測される。また1982年度の分布調査でも、円弧状の畔が見受けられたが、墳形の確定までには至らなかった。

調査は対象地全域に2箇所の特レンチを設定した。この結果、地表下約10cmで律令期の須恵器と土師器が出土した。須恵器には杯蓋、有台杯、無台杯、広口壺、盤などがある。8世紀前半代と、8世紀後半代から9世紀前半代にかかる一群のものに分けられる。また調査区の北側は古墳の周濠が設定された箇所と推定し拡張したところ、幅6mの、深さ15cm程の浅い溝状の遺構を検出したが、これに伴う遺物は出土せず、古墳の周濠の確認には至らなかった。（藤城）



図4 発掘調査状況（北から）



図5 清検出状況



図6 清検出状況



圖7 遺物検出状況

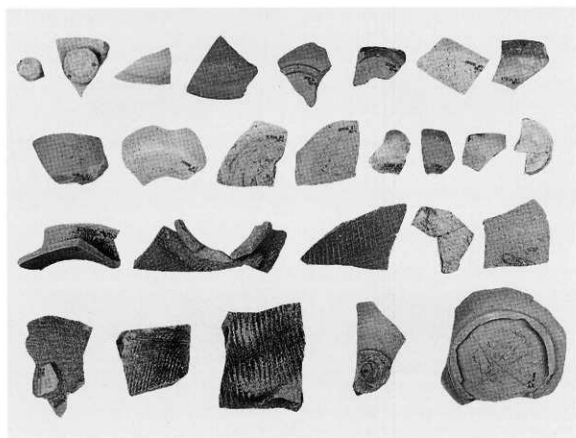


圖8 須恵器

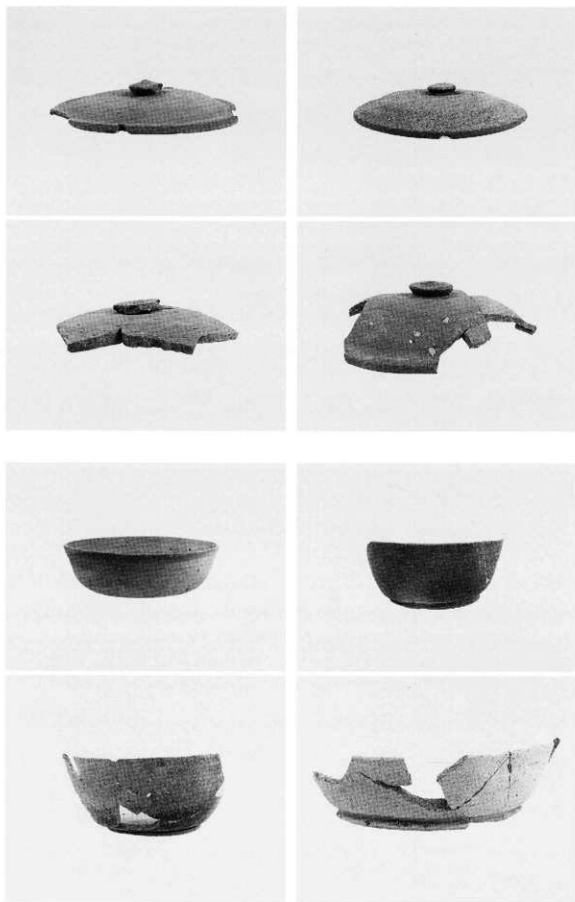


图9 須惠器(蓋・有台杯・無台杯)

Ⅲ 石名田・木舟遺跡発掘調査概要

所在地 小矢部市石名田39
 調査期間 平成7年11月28日～平成8年1月26日
 調査対象面積 2,955㎡
 調査の原因 資材置場建設
 調査日誌(抄)

- | | | | |
|-------|-----------------|------|-------------|
| 11.28 | 試掘ピット作成。掘り下げ開始。 | 1.16 | 井戸・ピット群の検出。 |
| 12.11 | 遺構・遺物検出。 | 24 | 写真撮影 |
| 14 | 北側トレンチ拡張。 | 26 | 埋め戻し。調査終了。 |

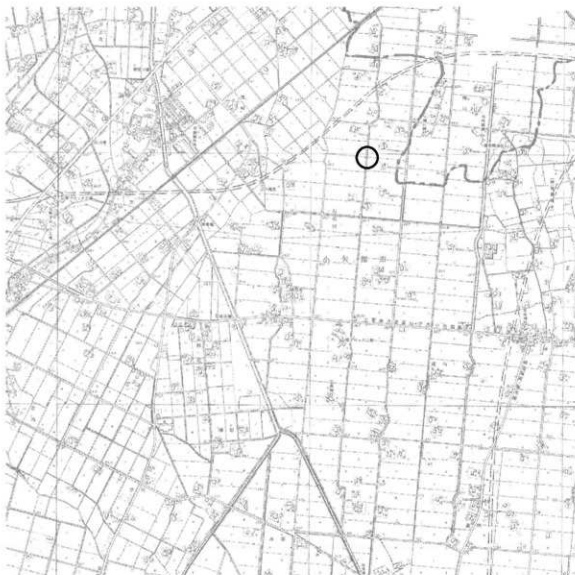


図10 発掘調査位置図(S=1/15,000)

調査概要

石名田・木舟遺跡は、小矢部川右岸の庄川扇状地扇端部付近に位置する。遺跡北東には木舟城址があり、遺跡のさらに北では平成2年度に小矢部市教育委員会が能越自動車道建設に先立ち実施した試掘調査で石名田遺跡を確認し、平成4年度には、富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所により福岡町木舟地区で遺跡が確認され、石名田・木舟遺跡とされた。

今回の調査は対象全域に一辺約1mのテストピットを設定し、遺物の分布状況を把握した後、分布が濃密な部分については適宜調査区を拡張した。調査の結果、調査区東側については木製品が出土し、テストピット内より遺物、遺構が検出されたため、一部調査区を拡張した。その結果、調査区中央では地震痕砂脈が検出された。調査区西側においては掘立柱建物1棟、井戸3基、溝2条、土坑6基などの遺構を検出した。

掘立柱建物SB-01は1×2間の建物とみられるもので、柱間は約200cm～240cmである。出土遺物がなく所属する時期は明かではない。これ以外に埋土の異なるピットが検出されているが建物としては確認できなかった。井戸SE-01は「石組井戸」であり、15cm前後の河原石を円を描いて積み重ね、隙間には5cm前後の小石で裏込めを施している。最深長約130cmである。SE-02も同じ構造であったが、上部は削平されており最深長は約80cmであった。その中からは「まなこ」と見られる曲げ物が検出されている。SE-03は検出面より最深長85cmであるが、石組みが施されているのは約55cm地点より底部にかけてだけである。SE-01・02からは15世紀後半から16世紀初め頃に属する土師器が出土している。溝2条については出土遺物がなく時期は不明である。土坑SK-01からは珠州の破片が出土しているが時期を確定することはできなかった。SK-03は底部に石が張りつくように残っており、井戸遺構の可能性もある。中より須恵質の土鏃、中世土師器、珠州、近世陶磁器などが出土している。その他、土坑3基、ピット10以上検出されたがそれに伴う遺物は出土しなかった。またその下層からは遺構は検出されなかったが、9世紀前半代を中心とする須恵器の一括資料が出土している。今回の調査区は遺跡範囲の南端であったが、今回の調査により「石名田・木舟遺跡」の範囲が南へ広がることが確認された。(辻谷)



図11 発掘調査状況

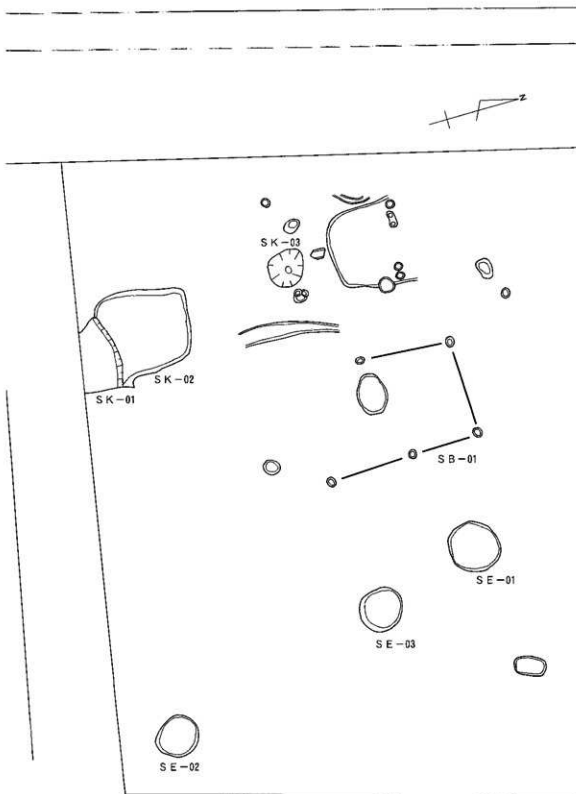


图12 遺構全体図(S-1/100)

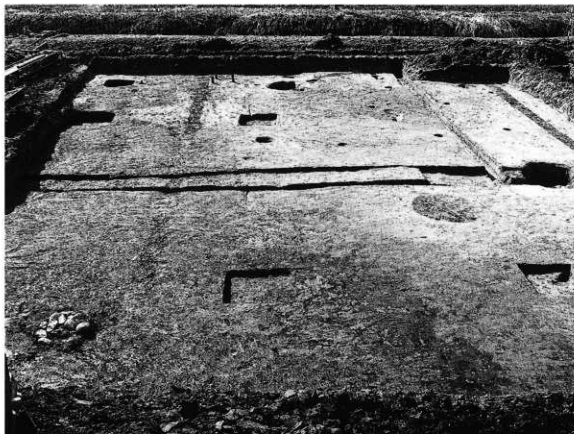


図13 遺構検出状況(南A・B)



図14 遺構検出状況(南A・B)

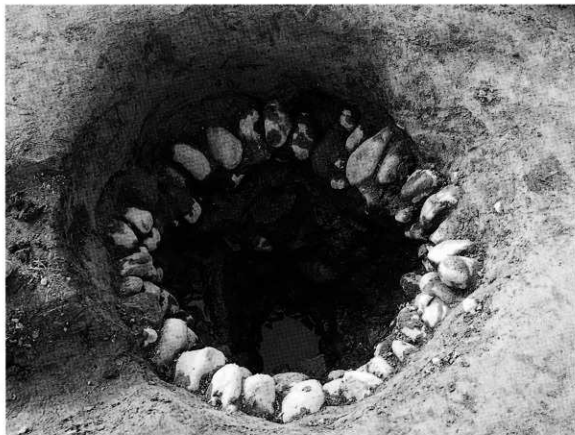


图15 石組井戸横出状況

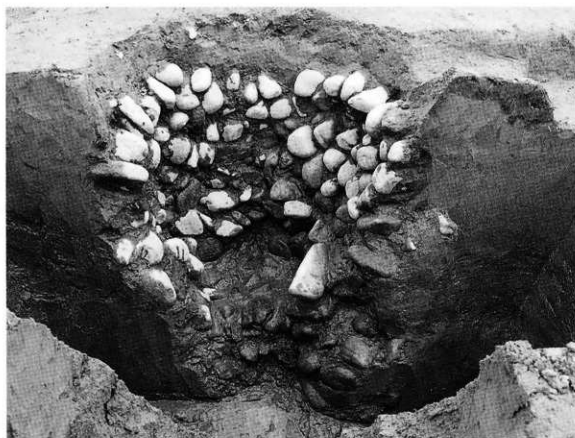


图16 石組井戸断面

報告書抄録

ふりがな	へいせいしちねんどじ やべし まいせうふんかぎいせつくつちようさがいほう							
書名	平成7年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報							
シリーズ名・番号	小矢部市埋蔵文化財調査報告書第43冊							
編著者名	藤城 全代							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932 富山県小矢部市木町1番1号 TEL0766-67-1760							
発行年月日	西暦1996年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	しよざいち 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
のぼりしょうつか 野端将軍塚 古墳	とやまけん ちやべし 富山県小矢部市 ひなせ せきふ 城生字北反町1624-1	16209	037	36°40'00"	136°51'35"	19950524 } 19950608	183㎡	住宅建設
いしなだ 石名田・ 木舟遺跡	とやまけん ちやべし 富山県小矢部市 いしなだ 石名田39	16209	169	36°41'10"	136°54'50"	19951128 } 19960126	2,955 ㎡	資材置き 場建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
野端将軍塚 古墳	古墳	古代	溝状遺構		須恵器・土師器			
石名田・ 木舟遺跡	集落	中世	独立柱建物1棟以上 井戸3基・溝2条		須恵器・珠洲・ 中世土師器		遺跡範囲が南に 広がる。	

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第43冊

平成7年度小矢部市埋蔵文化財発掘調査概報

発 行 日 1996年3月29日

編 集 ・ 発 行 小矢部市教育委員会
(〒932 富山県小矢部市本町1番1号)
TEL 0766-67-1760

印 刷 株式会社 アヤト

